

真

直

慶應



2014年シーズンは、本塾にとって飛躍の年であったといえるだろう。トーナメントではベスト16と奮わなかったが、4年ぶりの1部リーグで迎えた秋季リーグでは他の大学に全く劣らない戦いを見せ、9勝9敗という成績を残し8位でリーグを終えた。

次ぐインカレもベスト8に入り4年ぶりにJAPAN出場、そして7大会目にして初の延世定期戦勝利など立派な成績を残し、陸の王者としての片鱗を見せてきた。

昨年6月の慶早戦では、前半までの均衡した試合を持ち前のディフェンスで制し4年ぶりの慶早戦優勝。ホームコートである日吉記念館に若き血を響かせ、脳がとろけるような喜びを味わった。4年ぶりの慶早戦優勝。これよりも嬉しいことがあるだろうか？ この味を知った彼らは、今年もこの喜びに飢えている。

そして、今年のスローガンは「真直」。真面目に愚



4 福元直人 主将(4年生)

直に真摯にバスケットボールに取り組む。これは、他大学には無い我々の強みであり、この姿勢こそが日本一になるための近道であるという意図である。

慶早戦優勝と日本一という目標のもと、連覇の二文字を掲げ代々木第二体育館に勝利をもち取りにいく。陸の王者完全復活のために、全員が役割を果たし必ず勝利を掴み取る。

集大成

今シーズンチームの鍵を握るのは、間違いなく4年生である。入学当初から主力として試合に出ていたタレントぞろいの彼らを紹介しよう。

まずは、本塾の絶対的キャプテンである福元直人だ。彼の巧みなハンドリングと鍛え抜かれた体から繰り出されるトリッキーなパスで、見るもの全てを魅了する。キャプテンとしてチームを常に引っ張り、



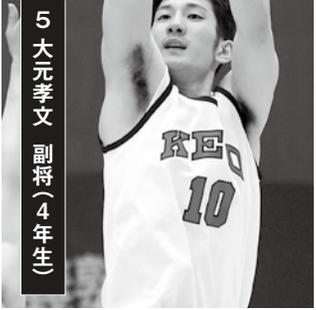
5 大元孝文 副将(4年生)

チームの精神的柱となった。絶対的な彼のキャプテンシーと、「真直」たる姿勢がチームを勝利へと導く。

そして、得点力に期待のかかる本塾のスーパースターである大元孝文。類稀なる身体能力から繰り広げられるドライブ・ダンク・リバウンド、たゆまぬ努力から量産されるスリーポイント、まさにアンストッパブル。むらつきがある彼だが、一度彼のスイッチが入ってしまったらディフェンスなどいらないも同然。本塾の勝利は間違いなし。

さらに、インサイドの中心である本塾のボセイドン黒木亮。昨年からはインサイド陣の中心としてチームのゴール下を守っていた彼は、今年さらにインサイドを始め高確率のペリメーター・スリーポイントに付けて、さらなる成長を遂げている。彼の圧倒的な存在感が、ゲームを支配する。4年生としての自覚も持ち、下級生を引っ張る彼の活躍に目が離せない。

面でも引く張る本塾のパーティーパー・桑原竜馬は、9mスリーポイントに身につけコートの上からでも3Pを沈める。また、チームの中心人物として下級生などを叱咤し、チームの雰囲気を引き締める。彼のコート内外での活躍が、慶早戦の勝利を引き寄せる。



13 西戸 良(3年生)

そして、急成長を遂げた本塾のラヴァー・ゴールム山崎哲だ。六大学戦を皮切りにスタメンの座を欲しいがままにし、未だ成長が留まることを知らない彼を止める術はない。長年の努力の未培われた圧倒的なフィジカルで相手を弾き飛ばし、ゴール下・リバウンドを蹂躪する。成長株が、ついに大器晩成した姿を多くご覧あれ。

本塾のスピードスター真木達は、持ち前の圧倒的なディフェンス力からスティールを量産する。彼のスワップディフェンスによって、早稲田のエースは完全に封じ込めてしまおう。また、オフエンス面でも神速のドライブでコートを切り裂き、得点を荒稼ぎする。3年前の慶早戦のような爆発的な得点力を、今年も見せてくれるだろう。

チームをプレー面・行動面で引っ張る本塾のパーティーパー・桑原竜馬は、9mスリーポイントに身につけコートの上からでも3Pを沈める。また、チームの中心人物として下級生などを叱咤し、チームの雰囲気を引き締める。彼のコート内外での活躍が、慶早戦の勝利を引き寄せる。

チームNo.1の美声を持つ、本塾のインハビタント中島一樹。3年間鍛え上げ

られた体は、まさに国宝。その冷蔵庫のようなフィジカルからは想像も出来ないほどのスピードをもちあわせ、早稲田ディフェンス陣を翻弄する。目にも留まらぬドライブから完全勢いを殺したティアドロップシュートは、見るもの全てを感涙させるほどの出来栄だ。

飛躍する戦力

最後は、本塾のゴッドサン清家智。一貫校出身の彼のメガボイスとガッツ溢れるリバウンドは、チームを鼓舞する。チームNo.1のユーモアを持つ彼のギャグは、見るものすべてを笑いの坩堝へといざなう。時空をもえぐりとするようなシュートフォームで、勝利をえぐり取る。

上級生となり更なる成長が期待される3年生。そこで、もう愛称ともなった本塾のスプラッシュブラザーズを紹介しよう。まずは、本塾の次世代エース西戸良だ。持ち前の身体能力をいかしたディフェンス・ドライブは、チームNo.1との呼び声も高い。彼のマークマンが、アンクルブレイクされることは間違いないだろう。2年間での経験が彼に得点力を身に付けさせ、ディフェンス面だけでなく得点面でも更なる期待がかかる。上級生としての自覚が、彼をさらなる高みへと導く。

そして、もう1人は本塾のGTOこと後藤宏太。天性のセンスとたゆまぬ努力で培ったシュート力は、自他ともに認めるチームNo.1だ。シューターとして



22 トカチヨフサワ(2年生)

シュートを決めるのはもちろん、今年はゲームメイクの役割も果たす重役を担う。ハイテンポな展開を作り出す攻撃的なガードとして、本塾に新たな風を巻き起こす。チームの中の信頼も厚く、彼の活躍に期待がかかる。

加えて一貫校出身の2人を紹介しよう。1人目は、本塾のスマッシュブラザーズ藤井和朗だ。持ち前の身体能力を活かし、常に速攻の先頭を走りゴール付近のシュートをことごとく沈める。フィジカル面で大きく成長し、そのおかげによって安定したペリメーター・スリーポイントシュートを身に付けた。

もう1人は、本塾のキラーマシン松岡祐介。シュート力に定評のある彼は、もくもくとシュートを打ち続ける。他人に左右されず自分を貫く姿は、まさに仕事人。

上級生としての自覚が芽生えた個性あふれる3年生の活躍にチームの命運がかかる。

次世代を担う者たち

昨年の経験を経て、チームの中心になりつつある2年生ビッグ3を紹介しよう。まず1人目は、本塾の元気印トカチヨフ・サワ。去年慶早戦での彼のリバウンド・ルーズボールなどの、

ハッスルプレーは記憶に新しいだろう。パワフルなゴール下を始め高いシュート力を引っさげ、今年から3番にコンバートされた彼のプレーに目が離せない。

2人目は、本塾の京都タワー木村能生だ。弱点だったフィジカル面を克服した彼は、昨年の試合経験も経て今年さらに試合に絡んでくるだろう。ダンクやゴール下だけではなく、高確率のスリーポイントでチームに勢いをもたらす。

3人目は、本塾のデニスロッドマン堂本阿斗ディーン。アメリカ譲りのフィジカルでオフエンスリバウンドを欲しいがままにする。幼稚舎から叩き上げられた彼のルーズボールなど、泥臭いプレー乞うご期待。

さらに、長い航海を経てバスケット部に返り咲いたU-18エンデバーの高橋晃史郎や、鍛え上げられた体から放たれるシュートは百発百中の原義裕。チームNo.1の低身長だからこそなせるクイックネスが持ち味の加藤舜王、チームNo.1の体力でコートを縦横無尽に走り回る大村航生など、国際色豊かな顔ぶれがチームの勢いを加速させる。

新進気鋭のルーキー

最後に4月に入学式を迎えたばかりの本塾の新しい仲間を紹介しよう。様々な

バックグラウンドを持ちながら経験などが異なる彼らだが、これからの活躍に期待がかかる。その中でも、特に期待されている新入生三銃士を紹介しよう。

1人目は、鳴り物入り期待の新星鳥羽陽介だ。インターハイ優勝校キャプテンという肩書きを引っさげバスケットの門を叩いた。彼の鍛え抜かれたファンダメンタルから繰り広げられるディフェンスは、即戦力だ。彼が、本塾のラストピースとなることだろう。

2人目は、高知からやってきたニューフェイス澤近智也だ。出身高校はバスケットでは有名ではないが、高知国体メンバーとして全国を経験している彼の活躍に期待。細身な体に詰まったパワーを存分に生かし、リバウンド・ドライブなど得点力に期待がかかる。

最後の1人は、大阪出身の原匠だ。小柄ながらもスピードとパスセンスを武器に大阪国体メンバーに選出され、アップテンポなゲームを展開させる。彼ら一年生トリオが新風を巻き起こし、チーム全体にいい勢いを与えてくれるだろう。

全員バスケットで、代々木でふたたび丘の上！陸の王者完全復活へ！絶対に負けられない戦いがここにある！

猛攻堅守

昨年本塾は、チームスローガン「Focus on this moment」の下、3部復帰を目指して精力的に日々の練習に取り組んだ。秋のリーグ戦では惜しくもグループ二位となり、入れ替え戦にコマを進めることができず、4部残留という悔しい結果であった。

しかし、今年こそ3部昇格を果たすため、新たなスローガン「邁進」を掲げ、身体作りから見直す地道なトレーニングを積み重ね、チーム全体の走力の底上げを図っている。

本塾が目指す「走るバスケット」を体現し、チーム一丸となって戦う姿をとくとご覧あれ！

チームの要

それではここから、今年チームを牽引する4年生を紹介しよう。

本塾の頼れる主将#4虎岩里佳。得意のジャンプシュートと軽快なフットワークで、攻守において要になること間違いなし。常にチームメイト全員に気を配り、鼓舞する彼女の姿に皆コート内外で絶対的な信頼を寄せる。昨シーズンは怪我で悔しい思いをした彼女のバスケットに対する熱い思いが、慶早戦で爆発する！副将である#5酒井亜弥。熱いハートを持つ彼女は、ずば抜けた脚力で速攻の先頭を走り抜き、速い試合展開の中



4 虎岩里佳 主将(4年生)



5 酒井亜弥 副将(4年生)

でもチームを引っ張る。持ち前の鋭いカットインは、チームの重要な得点源である。勝利に対する強い思いは、メンタル面においてもチームを奮い立たせ、どんな相手にも怯むことなく立ち向かう姿は必見である。

クールで冷静沈着な#6遠藤真央香。卓越したボールハンドリングによって繰り出されるキレのあるドライブ、素早いモーションから放たれる3Pと、ディフェンスの守る幅を広げる武器を併せ持つ。ここ一本、得点が欲しいところ、得点して欲しいところ、ポイントゲッターである彼女の活躍に期待。

驚異の脚力の持ち主#7岡東彩葉。ボールに対する鋭い嗅覚は人一倍で、相手の足元に入り込みミスを誘う激しいプレッシャーディフェンスと、ボールを必死に追う姿は勇猛果敢である。ディフェンスを出し抜く素早いドリブル、インナーセプトからの速攻と彼女のプレーは見どころ満載だ！

今年から学生コーチを務める野尻友里香は、豊富な知識と群を抜く頭脳を持ち主だ。コートの中では船と鞭を使い分け、人一倍チームの成長を切望している。選手に一番近い指導者であり、誰よりも熱い気持ちを持った彼女に、チーム全員絶対的な信頼

を寄せている。本塾に癒しをもたらす天使、吉次 真秀子。今年主務を務める彼女は、愛嬌ある笑顔を抑えやすことなく、選手全体のケアから部の実務まで仕事をテキパキこなす。そんな彼女の姿に、選手一同心底惚れ込んでいる。

多様性

チームの大黒柱、#8中村実里。安定した3Pと豊富なシュートバリエーションから繰り出されるシュートは、チームの欠かせない得点源となっている。エースとしてチームを引っ張る、彼女の洗練されたしなやかなプレーから目が離せない！

チームのムードメーカー#9石原早織。センターとしては小さいながらも、誰よりも走り、そして跳ぶ。彼女の高い身体能力から生まれるリバウンドは、身長差をものともしない。ゴール下で繰り出す華麗なフックシュートは、ディフェンスの意表を突き、本塾に得点をもたらしてくれるだろう。

個性派山ガール#10清水麻子。インサイドのプレーだけでなく、高校時代にフォワードだった経験を活かし、外角からのシュートでディフェンスを翻弄する。穏やかな性格の彼女だが、得点に対する執着は人一倍強く、常に虎視眈々とゴールを狙っている。

初の慶早戦に挑む、#11坂淑恵。今シーズンからの入部となった彼女だが、高い身長を活かしたセンタープレーは高さの無いチームの重

要な戦力となっている。普段はおっとりとした彼女が見せる力強いプレーに、目を見張るだろう。

センス光る頭脳派コーチ瀧本有加。女子高の指導も兼任する彼女は、多忙な日々を送る中、自身が選手であった経験からチームメイトに親身での確実アドバイスや指示を出し、チームにとってなくてはならない存在である。

その独特なキャラからチーム全員に愛されている#12光田美波は、高い精度を誇るシュートと強靱な体で攻守においてチームに必要な存在である。膝の怪我と闘いながらも大好きなバスケットに真摯に向き合い、努力を重ねている。

チーム1おっとり系女子#13亀田葉月。そのかわいらしい顔からは想像できないガッツあるプレーで、本塾に得点をもたらす。最大の武器ともいえる足の速さを活かして、インナーセプトを狙い、得点につなげる。

生粋の塾生#14村井睦。長年慶早戦を観客席から見ている彼女だが、選手としてコートに立つのは初めてである。彼女の持ち味である広い視野から、味方を活かす華麗なアシストパスは見応え抜群だ！

今年のチームは人数も増え、高さのある選手も加わり、一味違うチームとなっている。一人一人がどのチームにも負けない、バスケットに対する熱い情熱をもっている。格上の相手に対し、怯むことなく立ち向かう姿は観客を魅了すること間違いなし！

強豪早稲田相手に、これまで積み重ねてきた本塾ならではの堅実なバスケットがどこまで通用するのか、チャレンジャーとして挑む選手たちの勇姿をどうか見届けてほしい。